

刊夕 日三月八

常警每日新聞

定額一圓五錢
 廣告刊五號十二字第一行金五錢
 日曜祭日の翌日休刊
 發行所 常警毎日新聞社
 電話 六三〇
 印刷所 常警毎日新聞社

朝起と家庭教育

寄書 小池 長

起きてから食事迄には、少くとも一時間乃至は一時間半の餘裕が必要ではないでせうか。之れだけの時間があれば、御飯をたべてもおいしく、年齢相當に家庭の手傳ひも出来、學校の準備も整ふのであります。この事が身體を強め、氣分が宜しく大切な教育の眼目ではないでせうか。

昔から朝寝坊の夜ふかしと申しますが、人間は一定の量だけ眠らなければなりませんから、夜ふかしをすれば朝寝をするのが自然であります。朝起きをしようと思へば早寝に限るのであります。

私が幼稚園の子供について各家庭を訪問して訪ねて

炭俵は兩りにあてたり地上に直接置かぬ事火持をよくすると水かけると火力が弱くなる

見た事がありますが、大抵幼稚園時代の子供の寝る分量は一定して居ります、やはり早く寝せる家では早く

起きて困ると云ふ家まであるのでございます。早く寝させた家で起すのに、困るといふ家は皆無でございませぬ。朝起さんで困ると云ふ家は、必ず夜更しの家であると思へば、朝起さんの

- ◆ 明日の献立 ◆
- 【朝】 味噌汁 大根 小付 佃煮
- 【晝】 焼竹輪 生姜醬油
- 【晩】 酔の物 カニ 胡瓜 豚肉 生姜やき

困るぢやない、夜更しさせるからと云ふ明瞭な原因があるのですから、夜早くせ寝れば一切は解決するのでございます。中には子供が早く寝ないで困ると云ふ家庭がありませぬ、寝ないのぢやないねえ、仲には晝寝をしたからといふ理由もありませぬが、晝ねをした爲めに夜ねない、晝ねをついたのなら、晝ねをさせない様にすべきではないでせうか、或は隣の子が遊びに来るからねないのもあるやうですが、夜他所へ遊びに出る癖は最も宜しくないことで、家庭教育の必要なのは此の邊にあるのでございます。家の人の云ふ事をどうしても聞かない我



愁 嘆

我が總て捧げしものを――。
 瞬間を踊り狂ひし彼の蝶の 今は何處よ
 疲れては慰ひやすめる我が胸の花園も寂びたり
 はかなきは胸の静寂と嘆かへば吐息ももる、

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

平田町九六
 喜多流 謠曲 仕舞 白土會
 詳細は本會へ御問合せ下さい 電一七七番

磐城共濟病院

(福島縣平町) 電話六四二番

小兒科	院長 山謙一郎	電話大四二番
産科	部長 賀一忠	電話三三〇番
婦人科	部長 賀一忠	電話三三〇番
外科	部長 坂本眞一郎	電話二七二番
耳鼻咽喉科	部長 山謙一郎	電話二七二番
皮膚泌尿器科	部長 山謙一郎	電話二七二番
花柳病科	部長 山謙一郎	電話二七二番
X光線科	部長 山謙一郎	電話二七二番
衛生試驗所	部長 山謙一郎	電話二七二番
藥局	部長 山謙一郎	電話二七二番

◎ 毎日午前八時ヨリ午後十時迄診療
 ◎ 夜間診療開始(毎夜午後十時マデ)
 ◎ 病室完備 入院隨意

季節鳥料理

やな川 魚榮へ

平田町 電話四二四

かつを 塩から

魚問屋

店理代平命生本日本最優最
 榮盛賀志
 (三一二電)日丁四平

正金商會出張所

電球と器具

盛夏の宵……
 御散步のお歸りには
 愛飲家諸氏の爲に生れた
 サケノイへ
 酒の家。喜多八へ
 是非一度お立寄り下さい
 大衆の酒場
 素人小料理

平町世界館前(丸新デパート)
 出張所 電話(呼出)三〇三番
 本店 七丁目電話三九〇番

消防組問題を

中心に議場賑ふ

昨日の平町會頗る緊張

井上議長大童の論戦

昨日の平町會は午後一時四十分より開會、既報議案を議して井上議長散會を宣言した處、突如狩猟議員が起ち町制を手にして消防組の保管物に關する町長の監督権限を質した事に依り消防組のホース問題が巷間種々の噂を生んで居る折柄である爲め議場頗る活氣を呈し井上議長起立「斯かる質問の現れるのも平消防が江名消防組に啣筒のホースを貸與した事實がある爲めと思はれる故に事の真相を述べて置く」と前提し江名消防組購入の啣筒が到着せる際註文上の手違ひでホースが來なかつた爲め折角の放水試験が出来ないとの事に氣の毒に感じた當組より未だ配給しないホースのあつたのを幸ひ一時貸與せるものであり其後新品に依つて返却されてあるのだから此間何等世間の疑惑を招く点はない筈と信ずるとして大いに釋明する處あり次いで川崎議員起ちホース問題には觸れず銚子を轉じて「平消防組が最近購入した

撤水啣筒の機能及び價格その財源はどうなつて居るか」と質し井上議長が「撤水の外に放水、洗滌の機能を兼ね備えた最新式の啣筒であり、置場建設の費用を合し約四千圓になる爲め其内二千三百圓を消防組が負擔し残り一千七百圓を明年度の町豫算より補助を受け度で一時借入金を受領し既に啣筒を購入したのである」と答へ川崎議員再び起ち「消防組が猛火と健闘する上に於て其の武器として威力あるポンプを數多く用意したい願望は是れを諒とする、されど今や町の財政が極度に行詰つて小學校費の如きも大削減を加へ學級数を減じて無理な教育を行つて居るといふ様な平町としては正に危急存亡の折柄である斯かる場合に當つては宜しく消防組の如きも支出を制して財政を緩和し町民負擔軽減に努めてこそ感謝の焦点たり得べし」と考へる、然るに當てになつて當てにならぬ來

度町補助を見越してポンプを購入すると云ふが如きは甚だ附に落ちぬ遣り方である、即ち購入前に町會に諮れば反對の意見等が現れて面倒であるが購入して終へば町會も止むなく賛意を表すに至るであらうからと云ふが如き策略に依つて事後承諾の形式で事に臨んだのではないか、斯ふした事實は先に刺し子ハツビ購入の際にも例がある、今度も消防組の斯かる遣り方に依りて常に平町が豫算奪取を迫られるとすれば町の財政は危機に瀕するを保し難い故に今回のポンプの購入は町理事者に於いて現在の警備費の豫算以上に金額を膨脹せしめない事を條件として新規購入に諒解を與ふる事になつたのであるかどうかが此点を後日の念の爲めに伺つて置き度い

とあれば、一度繰り返します」と矢張り早の肉迫に町長澁々苦笑を洩らしつゝ「質問の要点に依ると町當局が消防組から壓迫されて豫算の諒解を與へたが如く解されるが左様な事實は毛頭ない、詳細は井上議長からお聞きを願ひ度い」と轉身、井上氏は「現在の撤水ポンプが使用に耐えないので、新規のものを購入する必要に迫られた爲めであつて事後承諾の策略と思はるゝは誤解であります」として種々説明、川崎氏「私の解

釋が誤解であれば幸ひです」と述べ酒井助役の「警備委員の席上では新規の要求をしない事を條件として承諾を與へた」との意味の答辯を警備委員たる佐々木議員更に補足して此点を確認し次いで緑川議員がホース管理の責任を質したのをキツカケに野崎議員起立

「消防組は明年度の平町の豫算から一千七百圓の補助あるを豫期し、他から借金して撤水ポンプを買つたとの井上氏の説明であるが豫算は町當局と警備委員だけでは決議出來ない、若し來年の豫算町會に於いて此の補助が萬一否決された場合、消防組は此の不足金をどう處分する、他から寄附でも集める氣か? 來年度の豫算を當て込む等といふ事は甚だ危険が多いと思ふので念の爲め訊いて置く、次ぎにホースは一

体江名消防組と交換したのかそれとも貸與したのか、世間では大變八釜しい様だから此点をお答へ願ふ」と突撃の矢を放つ、井上氏「不幸にして町會が否決すれば借入に調印した二、三の者が自腹を斬つて負擔する、ホースは交換でなく貸與である」と嚴然と答ふ、多田井議員は「撤水車を町が經營して全町限なく其の恩恵に均霑させる計劃はないか」と質し青沼町長「現在計劃はないが調査はして見る事とする」と再び緑川議員

「ホースを貸與するに當つて監督の責任に在る町理事者の承諾を受けなかつたのは公有物を個人の意志で自由に處分したものであり、越權の行爲である」と追撃急を極め警備委員として馬目(雅)議員「此の問題は警備委員會も不問に附せずとして警告を發し六月廿九日の江名濱消防組に於いて自動車ポンプの購入に對し平消防組が新ホース十本を貸與した事は手續上遺憾の點あり世の疑惑を招く惶れあり自今斯の如き問題を惹起せざる様注意ありたし」と、議事録に記載して置いた」と述べ井上氏は

「平町が火災の際には江名消防組の應援を受けねばならない、ホースがなくなつて居る場合平消防組が貸與した事は兩組の關係を一層接近するものであつて他に弊害はないと信ずる、たゞ手續きの上に錯誤があれば今後充分注意を促す事にする」と緑川議員の追撃仲々止まず盛んに町長其他に一問一答を繰り返したが井上氏の明朝にして誠意ある答辯に議場内の空氣緩和され午後五時十分散會するに至つたが

關する消防組の問題が議場の中心となつた丈に窓外の雨勢と共に長時間に亘る論戰喧しく近來珍らしい緊張振りを展開した

海の子便り
第一校臨海學校通信
(八月一日雨)四倉に着校後直ちに宿舎内外の整理をなす、四倉の校長先生や其の他の先生方が來て色々お世話をして頂いたので室はともきれいに整理されました、晝食後井上先生と水竹先生から赤禪のかけ方を教へられました、二回では仲々のみこめない、先生が「覺えた人はかけて來い点数をつけてやるから」と言はれたので赤禪をかけて行くとA君は六、五、五、五と九々うまい九点だ」と僕は九点いただきました、S君は一〇点です、早くこれをきり、と、そして海に入りたいが、此の雨では!!皆赤禪をかけて壘の上で泳ぎのけいこをして居ます、五年の人達は皆なテラテラ坊主をつくつて木の下に下りました、そして皆で天氣になる

やうに祈りました、午後二時雨止む、先生に連れられて海岸に行く、お、あの海思はず大きく呼吸をする波に戯れつゝ、二時間餘を過すおやつに水無館とパンを頂く、九時床に入る、今夜はどんな夢を結ぶやら附添の先生は左の八名です、篠山井上、仲村、佐藤、橋木、松本、横田、水竹、

(第二信) 八月二日時々晴後小雨)午前五時「起床」の呼子に勇躍して起き出で赤禪をかけ海邊へ!!海原は霧深く遠くは見えないが東天がすかに陽輝くを見る昨夜願ひし誠入られたと歡ぶ、海水ひたる海邊でラヂオ体操をなす終つて築城などして小一時間遊ぶ七時朝食ともうまい先生から聞いたが米は一等米、味噌、醬油は全部平のものなそうです、今日の献立は

(朝)味噌汁 じゃがもも 豆 香物(晝)鯛の煮え じゃがもも 豆の煮え 香物(夕)鯉刺身 味噌汁 香物

です、こんなたくさんな御馳走を九十もの人が一所に食べるのですから自然競走になります、M君は八杯、S君は六杯家に居るときは二杯より食べたことのないH君でさい五杯も食べました食事中の禮儀作法については校長先生から詳しくお聞きしたのでとても立派です、

舗装路上の

松焚火は面倒

直接に火を觸れると
解け出す惶れ

着工以來鋭意工事中の平町
國道舗装は既に四丁目を終
了三丁目の半ばを工事中で
あること既報の通りで今月
下旬の舊盆までには二丁目
までの大部を完了するもの
と見込まれてゐるが巨費を
投じた大工事表面がアス
ハルトであるため舊盆の慣
例松焚火の高熱にあへば溶
解するのでこの點につき土
木監督所では頭を痛め平町
と協議した結果舊來の慣習
を尊重し松焚きは禁止せぬ
代り焚火の際は道路面上一
米の高さの鍋中で焚くは若
しくは舗装面に全然火を落

第一校登山隊

明日決行

既報平第一小學校湯ノ岳登
山隊一行は明日午後一時校
庭集合、瓜田、上川、根本
大和田各係訓練導引卒の下に
出發するが希望者兒童は尋
五以上六十餘名で好間街道
より箕輪村榎小屋に出で高
野箕輪第一小學校に一泊翌
日午前七時出發湯ノ岳登山
歸りは内郷村宮へ下り綴高
坂を経て歸校午後四時解散
する豫定である

村相撲の大闘が

密告を恨み

一家を斃殺するとして

脅迫暴行

豊間村大字薄磯字北郷二〇
賭博前科一犯鈴木福太郎
(三七)は去る一日午後十時半
頃同字の漁夫日向寺音吉方
に侵入
就寝中の 家族を叩き
起し「長男竹松に怨みがあ
る、竹松を出せ、隠すと一
家斃殺にする」と脅かし
たが竹松は漁業の爲不在だ
つたので音吉の側腹を殴打
全治
二週間の 傷害を負せ
た事發覺平署に檢舉され目
下取調べ中であるが福太郎
は村相撲の強者で去る七月
初旬同村の岩穴で賭博中を
竹松の密告により逮捕され
たのを遺恨に思つて暴行を
働らいたものである

酒税完納

近來の好成績

去月末納期の平稅務署管内
第一期酒造税は釀造家數三
十七軒、稅額十四萬三千三
百三十三圓十八錢であつた
が何れも納期までに宅納と
いふ近來にない好成绩であ
つた

船舶出入

四倉の築港

去る七年度に起工式を擧げ
て以來所長排斥問題その他
の理由によつて工事が行惱
んでゐた四倉漁港修築工事

鼻の頭を

泥で挽く

泥酔した亂暴婿

磐崎村上湯長谷字力石九五
小野田炭礦坑夫清之助長女
カツヨの内縁の夫安島源治
(三三)は去る一日午後八時頃
泥酔の上カツヨのことから
養父清之助と口論となり怒
れる源治は鋸をもつて鼻清
之助の頭部及び顔面に全治
二週間の傷害を與へ平署に
檢舉され目下取調べ中

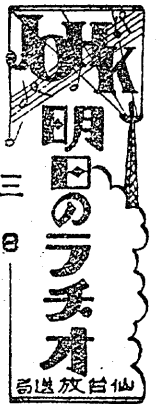
手附金騙取

牛馬商に化けて

永戸村大字下永井無職藁谷
要(三〇)は去る三月下旬頃か
ら牛馬商と詐稱して好間村
上好間牛馬商立花逸馬から
三十圓を騙取した外郡内十
數ヶ所から手附金専門の詐
欺を働らいたこと平署發覺
昨二檢日舉された

磐女水泳開始

既報
雨天の爲め延期中の磐女水
泳講習會員卅餘名は本月中
川、酒井、日野、永島、土
岐、新妻各係教諭引卒の下
に平午前七時二十五分に出



今晚も明日も北
東の風一時晴

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
幼児の爲のお話かくれん
ぼお話俱樂部藤田みつ子
後六、二五 講演「城に關
する話」神宮皇學館教授
鳥羽正雄
後八、〇〇 歌謡曲 天龍
下れば外數種市丸
後八、二〇 箏曲 根岸の
四季 山室千代子
後八、四〇 清元 色増梶
夕映 清元梅壽太夫外
後九、〇〇 人情 嘶牡丹
燈籠 三三遊亭圓馬

點呼豫習出席

既報
本日の平町簡閱點呼豫習教
育出席者は百餘名であつた

第二臨海學校

既報
雨天の爲め延期された平第
二小學校日歸へり海濱學校
は明後の二日間午前五時半
片倉製米工場前集合、自動
車に分乗出發豊間村薄磯海
岸に於て行れるが参加希望
兒童は第一日五百二十三

役に立つ海藻類を

豊間村で更新増殖を圖る

本格的に施行するわけであ
るが今年の成績如何によつ
ては隔年位に行ふ豫定でそ
の結果は關係各方面より注
目されてゐる

皆様へ(告)

此度は心にもなき不祥事を
惹起いたし皆様をお騒がせ
して誠に面目次第もありま
せん當夜は妹澁子と長谷川
家との婚禮披露宴の後新婚
旅行出立の見送りに際し一
足遅れて馳付けたる時は既

明日の部

後九、三〇 時報ニ
氣象通報 番組豫告
前六、三〇 夏期英語講座
チャールズ、バーカー
前七、二〇 聖典講義 二
松學舎長 山田 準
前七、四〇 「六年生のお
さらけ時間」讀方(第四
日) 横澤 文質
前八、〇〇 家庭講座「鳥
獸肉卵に就て」佐藤つぎ
前八、二〇 料理献立
前一〇、三〇 家庭講座
「孟蘭盆會の話」石塚賢道

後〇、〇五吹奏樂

海軍
々樂隊
後一、〇〇 運動競技實況
全國中等學校優勝野球大
會東北豫選(仙臺市澁橋
球場より中継)
後六、〇〇 子供の時間
「童話とお話」仙臺能仁
保兒園々兒
後六、二五 趣味講座「奥
の細道を辿る」那須野よ
り白河(三) 萩原井泉水
後七、三〇 謠曲「月二題」
後八、〇〇 哥澤新曲
後八、三〇 浪花節東武藏

平町田町

丹野淳

八月三日

近斬首頭

(藤原上院及上院)

田邊南龍(作)
山本英春(監)

一〇〇:

水野の用人が歡願
今でも水口在に此子孫は
残つて居りまして確に酒屋
をいたして居ります、こ
ゝから櫻川と云ふ銘酒が出
來ます。

「ナニ水野の用人……打殺
して仕舞く」
「坊主が憎けりけ装束まで
憎い、ソレ一同……」
と立上つた時に唐犬權兵

さて愈々敵討ちをしやう
と云ふ事になつて死装束を
取替へ長兵衛から何時何日
に乘込まうと云ふ觸れを出
しました、サア一同は、モ
ウ何うせ死ぬ命だと云ふの
で自棄に皆な酒ばかり飲ん
で居りませと、或日の事で
長兵衛の家の前に駕籠が一
挺をりて中から出て來た人
物は六十何歳、衣服大小立
派な人
「オイ立派な侍が來たが紋
が來に喰はねえ十郎左衛門
の紋だ」
「何だらう」
と云つて居る内に
「御頼み申します」
「何んだ」
「長兵衛元締御宅は此方で
ございますか」
「當家で」
「御免下さいまし」
と這入つて來た老人、小
腰を屈めて
「私は水野十郎左衛門の用
人水野主水と申する者でござ
います、元締に少々御目
に掛り度く、御在宅な



衛が出て來て
「今まで屋敷渡世をして居
る、屋敷から御客様がお出
でなすつたのを何で無禮の
事をする」
皆んな小さくなつてしま
ひました

「外ぢやアございませんが
水野十郎左衛門の家來主水
といふ人が來ました、坊主
が憎けりやア装束まで憎い
と云ふ警へがございますか
ら、打ち殺さうと思つたら
權兵衛さんに叱られました

「私は長兵衛の乾兒で唐犬
權兵衛と申します、何御用
でございますか私にて宜し
ければ承はりませう」
「私は主水と申します者で
ございます、少々元締に御
直談を願ひ度う存じます、
御在字でございませうか」
「左様なら少々御控へ下さ
いまし……是々斯々いふ方
が入らつしつた元締に取り
次げ」
「ヘエ元締へ申げます」
「何だガヤガヤ何を云つて
るんだ」

が此方へ通したもんでござ
いませうか、打ち殺したも
んでございませうか承はり
ます」
「何の用で來なすつたか此
方へお通し申せ、本來なれ
ば抵抗しなへつちあアなら
ねえのだが、對手が一人で
來たんだからそれも卑怯だ
此方へお通し申せ、能く粗
忽のねえやうに可憐に扱へ
よ」
「ヘエ……」
やがて長兵衛の居間へ這
いつて參りました水野主水
長兵衛も袴を拂ひました
「エ、始めましてお目に掛
ります、私は水野十郎左衛
門の用人水野主水と云ふ者
でございます、少々嘆願の
筋が有つて出ましたお人拂
ひを願ひます」
「皆な次の間へ退がれ」
「ヘエだつて親分も一人な
ら先方も一人、何んな事を
するか知れやアしねえ」
「貴様達が案じる事はねえ
お茶煙草盆を出さねえか」

店主	が	店員
を	連	れて
か	れ	る
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
酒	場	
ラ	ン	
電	二	五
番		

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

夜 間

胃腸病科 内 科
皮膚科 性 病 科

門 專

院醫科性胃腸病村松
(番七〇一電町南町平)

療

◎御家庭薬として是非御用意下さい
熱い火や湯でヤケドなされた時直ぐツケますればヒ
ブクレにならずなほります
キリ印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料
で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さ
い。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキ
レイに治ります。

キリ印
ヤケド キリキズ
ヒキサド はだのアレ
シモヤケ あかざれ
たざれ

太乙膏

平町古鍛冶町一〇
阿康薬舗
電話四四番

石 炭
コークス
玉 炭
平 驛 前
阿部石炭商店
電話三七番

貸切の御用命は
ぜひ……三井自動車部へ!!!
電話六八五番
◎乗合は守間、合戸、澤渡方面行